

# 私たちが支えます。 地域福祉を支えるプロフェッショナル

困ったことや不安なこと、わからないことがあったら、私たちにご相談ください。  
子育てや障がい、高齢、介護など分野ごとの専門家が支援を行っています。

## 子育てのことなら

誰かに聞いてみたいと思  
ったこと、ちょっと困  
ったことなどを気軽に相談  
できます。子育て・子育  
ちを応援するスタッフが  
お待ちしております。

- 子ども・子育て  
総合センター あいっく  
☎0721-50-4664



## 障がいのことなら

障がい者やその家族から  
日常生活や就労、日中活  
動の場などさまざまな相  
談に応じています。また、  
ピアカウンセリングも行  
っています。

- ピアセンター  
かわちながの  
☎0721-70-7002  
FAX : 0721-70-7003



## どこに相談するか 分からないときは

住み慣れた地域で安心し  
た生活ができるように、  
地域の方々や支援機関と  
連携し、コミュニティソ  
ーシャルワーカー (CSW)  
と一緒に取り組みます。

- 社会福祉協議会  
☎0721-65-0133



## 生活に関わる 経済的な悩みのことなら

就職に向けた支援や家計の立て直しな  
どの様々な支援を行いながら、解決に  
向けて一緒になって取り組みます。

- 市役所 地域福祉高齢課  
☎0721-53-1111 (代表)



## 高齢者のことなら

保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーなど  
の連携により総合的な支援に取り組んでいま  
す。介護サービスや認知症などのご相談は、ご  
家族や地域の方でも大丈夫です。

- 東部地域包括支援センター ☎0721-52-0180
- 中部地域包括支援センター ☎0721-55-3451
- 西部地域包括支援センター ☎0721-56-6600

河内長野市第5次地域福祉計画・  
河内長野市社会福祉協議会第4次地域福祉活動計画

# ほっとかへん。

## かわちながの つながり・支えあい 推進プラン



支えて、  
支えられて、  
活かし合って。

最後に確認!

## あなたの「つながり度」は？ あてはまるものにチェック 「✓」を入れてみましょう!

- ① 今よりもう少し地域の人と仲良くなりたと思う
- ② ご近所の人とあいさつを交わすことがある
- ③ 地域の行事やイベントに年1回以上参加している
- ④ 困ったときに頼れる家族以外の方が近所にいる
- ⑤ 地域の回覧板や掲示板の内容を確認している
- ⑥ 子どもや高齢者など、近所の人を気にかけている
- ⑦ 老人クラブや公民館クラブ、趣味のサークルなど、家族以外のコミュニティに参加している
- ⑧ この1週間で家族以外の誰かと話をして笑った
- ⑨ この1週間で4日以上外出（近所へのお買い物なども含む）をした
- ⑩ この1週間で誰か（家族含む）と一緒に食事をした

上級

10~8個  
あなたはきっと地域の人気者で  
しょう。これからもそのつな  
がりを大切にしていましょ  
う。

中級

7~4個  
あと一歩でつながり名人を  
目指せます。できそうなこ  
とから始めてみましょう。

初級

3~0個  
まずは、あいさつやイベント参加な  
ど小さな一歩から始めてみましょ  
う。地域はあなたを待っています!

発行元/お問い合わせ  
河内長野市地域福祉高齢課 河内長野市原町1丁目1番1号 ☎0721-53-1111 (代表)  
河内長野市社会福祉協議会 河内長野市喜多町663-1 イズミヤSC河内長野4階内 ☎0721-65-0133 (代表)  
(2026年2月発行)

計画の資料編や、  
用語の説明を確認した  
方はこちらから



河内長野市  
河内長野市社会福祉協議会



すこし前、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行というできごとがありました。

「外に出てはいけない」  
「人と会ってはいけない」  
「話すときはマスクが必要」  
それまであたり前だったことが急にできなくなりました。  
多くの方が不自由さを感じたのではないのでしょうか。



あのとき、ステイホームと言われて、あなたが会いたいと思ったのは、それとも思い描いたのは誰の顔でしたか？

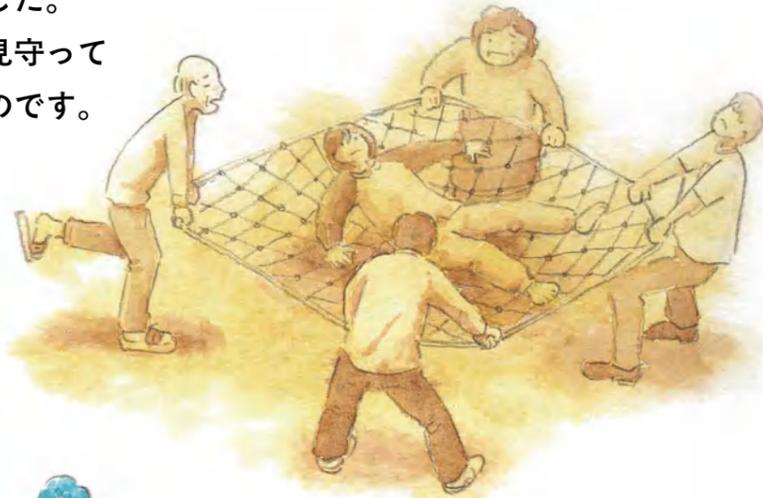


「人と会いたい」と思ったのは、わたしたち人間が人とのつながり（関係性）の中で生きているからです。コロナ禍は、つながりがわたしたちの暮らしの中でとても大きなものであることを再認識する機会にもなりました。



そして、コロナ禍が明けてつながりはどう変わったのでしょうか。仕事や生活で最低限必要なつながり以外は、かなり希薄になってしまったと感じることはありませんか？

これまで、つながりを担う  
いちばん小さな単位は家族でした。  
家族が家族のことをしっかり見守って  
社会からの孤立を防いでいたのです。



しかし、家族のかたちが  
多様化するなかで、  
少ない人数でひとりを  
支えるのはとても大変です。



ひとり暮らし、高齢者の家庭など  
家族の形がさまざまなように、  
地域とのつながりもまたさまざまです。  
その過程で、孤立死、ヤングケアラーなどの  
課題も出てきました。

これまで専門家や自治体が  
制度をつくって対応してきましたが、  
問題はどんどん複雑化します。  
支える力も足りなくなってきました。

家族や専門家だけでなく、  
河内長野に関わる人みんなでつながり、  
誰ひとり取り残さないまちをつくれませんか。  
そのために河内長野市と河内長野市社会福祉協議会、  
そして地域みなさんが一緒になって考えたのが、  
この地域福祉計画です。

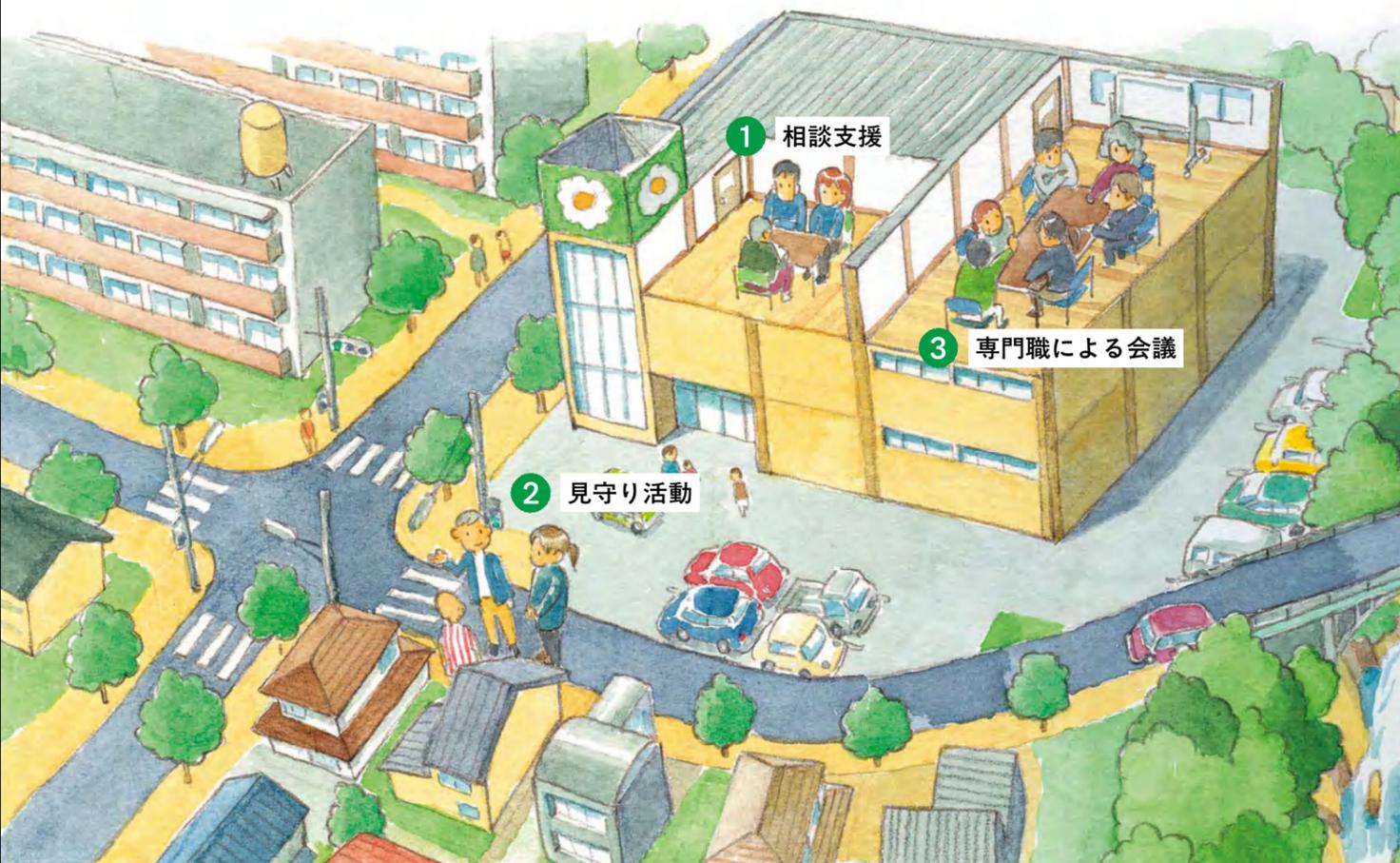


では、どのように「つながり」をつくって  
いけばよいのか、順に見ていきましょう。



# 1 孤立を生まないアプローチ

民生委員・児童委員や福祉委員など地域住民による見守り、声掛けなどの身近な支援から、福祉各分野の支援機関による専門的な支援までを重ね合わせることで、誰も取り残さないネットワークを構築します。さらに、地域社会から孤立している人を発見、寄り添うことで地域とつなぎ、孤立する人を生まない地域社会を目指します。



## 1 相談支援の充実

高齢、子ども、障がい、生活困窮をはじめとした各種相談の充実を図るとともに、分野間の連携を強化することで、包括的な相談支援体制の構築を進めます。

- コア会議などによる、各分野共通の相談支援に関する課題解決策の検討

## 2 民生委員や福祉委員などによる身近な支援

見守りや訪問活動を支援し、地域の孤立者の発見や、孤立の防止を進めます。また、サロンや各種イベントなどを通じて、普段からのつながりづくりを促進します。

- 民生委員児童委員協議会への支援、民生委員の定員充足
- 地区（校区）福祉委員会への支援

## 3 地域の支援者と専門職による連携

民生委員・児童委員や福祉委員、保護司など地域の支援者と福祉の専門職の連携により、地域生活課題の早期発見・把握、早期対応のできる体制づくりを進めます。

- 連携研修会やレビュー会議による顔の見える関係づくり、連携促進

## 4 権利擁護の推進

認知症や障がいにより判断能力が十分でない状態であっても、日常生活で不利益を被ることなく、自分らしい生活を送ることができるよう権利擁護の取り組みを推進します。【成年後見利用促進計画】

- 後見支援センターを中心としたワーキング会議での情報共有、課題検討

子ども、高齢者、障がい者などへの虐待やDVなどの暴力を防止するため、相談・通報窓口の周知を進め、関係機関・団体と連携しながら相談支援体制の充実を図ります。

- 要保護児童対策地域協議会などによる虐待の緊急性の判断や対応方針の決定



## 5 専門職による伴走支援と社会参加支援

必要な人に必要な情報やサービスが届くよう、自分から相談できない人に対して、伴走支援を行います。また、その人を取り囲む環境改善を目指し、家族や地域への支援も行います。さらに、必要に応じて関係機関や地域の団体などにつなぐなど、支援対象者一人ひとりに対応した社会参加を促します。

- アウトリーチ等を通じた継続的支援
- 就労や地域活動へつなぐ参加支援

## 6 分野を越えた連携ができる体制づくり

誰もが安心して共生できる地域社会の実現に向け、福祉分野だけでなく、商業、工業、農林水産業、防犯・防災、環境、交通、都市計画など分野を越えて連携し、地域経済・社会全体の中で、「人」「モノ」「お金」と「思い」が循環し、相互に支える、支えられる関係づくりを進めていきます。

- HOTねっと相談員の配置による連携強化
- HOTねっと運用による課題解決
- 重層的支援体制整備事業による福祉分野を越えた多分野での連携、地域づくりの促進

つながるアイデア

### 小さなおせっかい

「気になるけど声をかけにくい」そんな時に勇気を出してかけた一言が、誰かの大きな支えになることがあります。「おせっかい」は、時に誰かにとっての安心につながることもありますね。

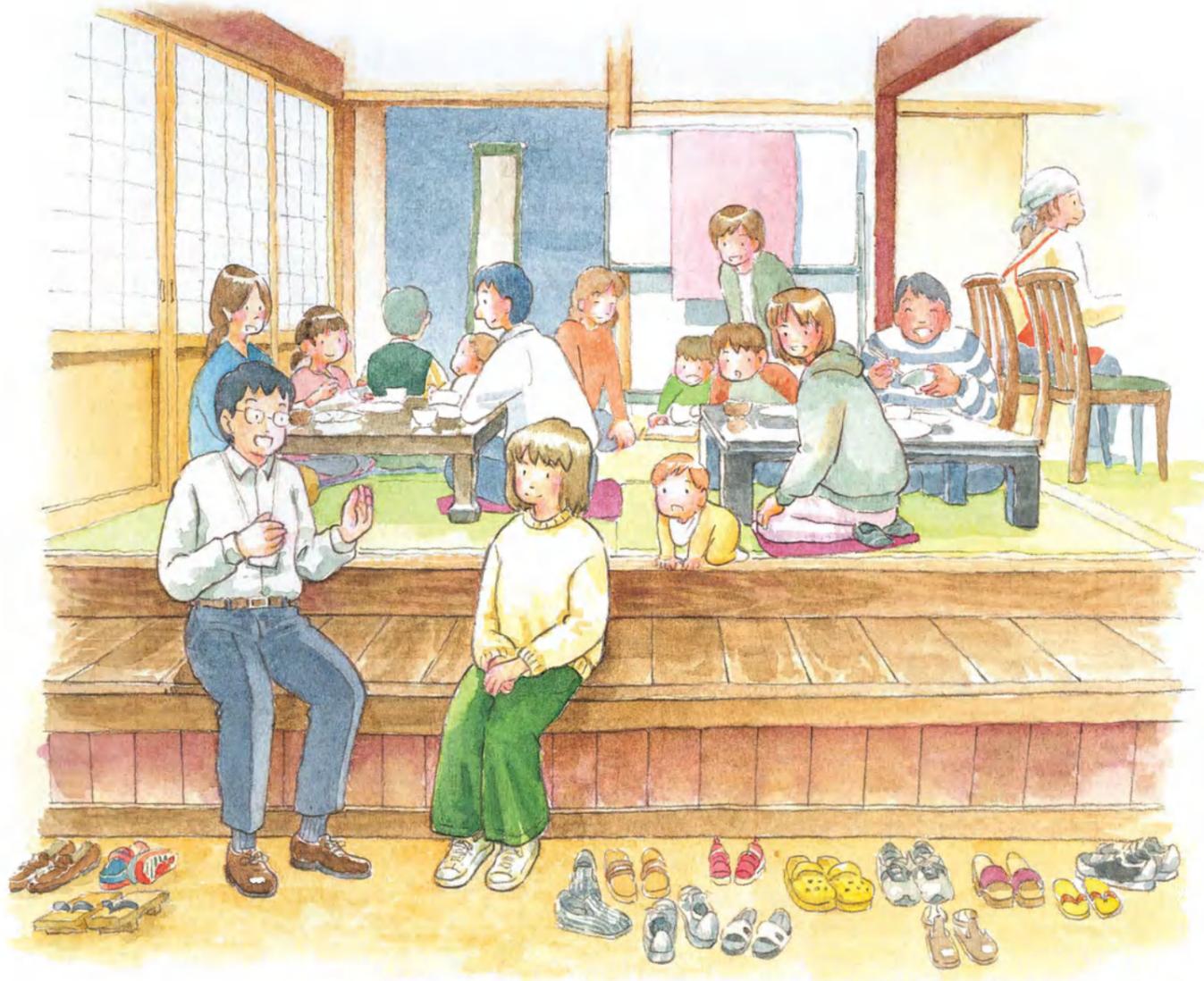
つながるアイデア

### 井戸端会議

定期的に地域の会館で開かれている井戸端会議。参加のきっかけは「おしゃべりしたかったから」。親しい人が増えるにつれて「困ったときに頼れる人がいる」という安心感を感じています。

# 2 つながり続けるアプローチ

地域住民が主体となった支え合い活動を支援することで、地域でのつながりを強化します。また、こどもから高齢者まで多世代の地域住民に加え、地域で活動している多様な団体、社会福祉法人、民間企業などあらゆる主体が出会い、多種多様なつながりが広がっていく地域社会を目指します。



## 1 つながる機会づくり

地域住民が主体となった多様な居場所づくり、ゆるやかな見守り活動、生活支援や移動支援などの支え合い活動を支援し、地域でのつながりを強化します。また、多様な地域活動やボランティア活動を支援し、より多くの人が社会参加できるきっかけづくりを進めます。

- 地域パートナー（兼生活支援コーディネーター）の配置による地域活動支援
- ボランティア・市民活動センターによるコーディネート機能の充実

つながるアイデア  
**誰かのために使う時間**

子育てがひと段落したので、地域の活動に参加するようになりました。最初は誰かのためと思っていたけど、自分自身が元気になっているように感じます。地域に関わることは、自分を支えることにもなるのですね。



## 2 多様な主体の連携促進

地域活動を実践している各種団体や、社会福祉法人、民間企業などあらゆる主体が連携し、地域生活課題の解決に向けた活動展開につながるよう、地域ごとに多様な主体が出会い、話し合える機会を創出します。

- 地域生活課題の解決に向けた話し合いの場の開催



## 3 つながる人材の育成

誰もが地域の課題に対する関心を持ち、さまざまな形で地域活動に携われるよう情報提供や学習の機会を提供します。また、福祉と人権の意識を身につけられるよう、部落問題やインターネット上の人権侵害を始めとしたあらゆる差別を許さない地域社会に向けた意識啓発や教育を推進します。

- 人権啓発と教育の実施
- 各種講座やボランティア体験、職場体験推進
- 福祉学習プログラムの実施



つながるアイデア  
**あいさつ**

「顔を知っている」だけで、あいさつが生まれる。あいさつが増えると、地域がちょっと明るくなる。そんな日々の積み重ねが、ちょっとした変化にも気づくことのできる関係性を育てているのだと思います。

# 3

## もしもに備えたアプローチ

災害などの緊急時にも取り残される人がいないよう、また、子どもや高齢者が犯罪や事故に巻き込まれることのないよう、地域ぐるみで連携した見守りのネットワークの充実を図ります。日頃の見守り体制の強化と防犯・防災対策を充実することで、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指します。

### 1 防災対策

災害などの緊急時にも一人暮らしの高齢者や障がい者の安全が確保されるよう、日常的な見守り活動を推進します。さらに、引き続き自主防災組織や災害ボランティアの養成・支援を図ります。



一人で避難が難しい人に対して個別避難計画を策定し、いざという時の避難方法を確立します。

- 災害時緊急時対策の充実

防災訓練 (AED講習)



防災倉庫

防犯ステーション

交番

コミュニティラジオ

防犯パトロール

青色パトロール

消防団屯所

防犯講演・セミナー

### 2 防犯対策

- 地域の防犯活動や見守り活動の充実  
防犯協議会をはじめとする地域の自主的な防犯活動を支援します。



- 消費者被害防止の啓発と相談体制の充実  
消費生活センターにおいて、消費者被害防止と相談支援体制の充実を図ります。



### ●再犯防止の推進

保護司会や更生保護女性会の活動を支援し、非行・犯罪、再犯防止と社会復帰を進めます。また、保健・福祉・医療などの各種サービスが必要な人に行き届くよう支援することで犯罪を防止するとともに、立ち直り、自立に向けた支援を進めます。

【再犯防止推進計画】



- 特殊詐欺被害防止のための啓発や自動通話録音装置の無償貸与警察と連携し、特殊詐欺の被害防止に取り組みます。



つながるアイデア  
**防災訓練**

最近災害のニュースが多いので、防災訓練に参加したら近所の方と話すようになりました。「もしも」のときの対応を知って、頼れる人もつくることは大切ですね。ふだんの関係づくりが、いざという時の力になると感じます。

つながるアイデア  
**お互いさまの関係性**

私はいつも「手伝ってもらってばかりで何もできない」と思っていたけど、あいさつや隣近所への声かけで少しは貢献できているのかなと思うようになりました。みんなが地域のなかで“私にもできること”を見つけられるといいですね。

# 市の計画をかたちづくる 13小学校区の活動目標（令和8年度→12年度）

それぞれの地域の特性を活かしたり、課題を見つめながら地域の実態に合った地域福祉活動を進めるため、小学校区ごとにワークショップを開催。各地域で3回の検討を経て「地域福祉活動目標」を考えました。

## 1 楠小学校区

人口：10,085人 世帯数：5,130世帯 高齢化率：36.8%

1. つながり、学びあい、助け合う、多世代交流の輪を広げる
2. 地域資源を活かし、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進める

## 2 小山田小学校区

人口：7,574人 世帯数：3,751世帯 高齢化率：37.1%

1. 気軽に集い、交流できる居場所を整備・運営し、多世代のつながりを促進する
2. 地域資源を活用した支え合いの仕組みづくり

## 3 長野小学校区

人口：13,847人 世帯数：6,891世帯 高齢化率：31.8%

1. 「つながり」を育み、安心して暮らせる地域へ
2. 「継続」を大切に、未来へつなぐ地域の創造に

## 4 天野小学校区

人口：4,132人 世帯数：2,098世帯 高齢化率：47.5%

1. 顔の見える関係を育み、誰もが気軽に集い交流できる地域をつくる
2. 身近な困りごとに関心を持ち、多様な主体で支え合う仕組みをつくる

## 5 南花台小学校区

人口：6,686人 世帯数：3,330世帯 高齢化率：47.5%

1. 多世代がつながる・支え合う「南花台コミュニティ」を育む
2. 誰もが「できること」で活躍できる場をつくる

## 6 高向小学校区

人口：3,642人 世帯数：1,775世帯 高齢化率：45.6%

1. 多世代が交流し互いに支え合い心豊かな地域社会をめざす
2. 地域資源をいかし、ともに創りあげる地域を育む

## 7 加賀田小学校区

人口：5,941人 世帯数：2,883世帯 高齢化率：43.3%

1. 多世代のつながりを深め、誰もが孤立しない地域づくり
2. 住民一人ひとりの「困った」を支え合う仕組みづくり

## 8 千代田小学校区

人口：15,040人 世帯数：7,435世帯 高齢化率：29.8%

1. 多世代交流の促進と居場所づくり
2. 地域住民による支え合いの体制の構築

## 9 石仏小学校区

人口：5,001人 世帯数：2,395世帯 高齢化率：40.3%

1. ふれあいの輪を広げ、誰もが安心して過ごせる居場所づくり
2. 地域資源を活かし、未来世代を育む支え合いの仕組み

## 10 三日市小学校区

人口：10,821人 世帯数：4,863世帯 高齢化率：27.8%

1. 多世代が交流し、学び合い、共に成長できる地域共育の推進
2. 地域資源を活かし、気軽に集える居場所づくりを検討する

## 11 美加の台小学校区

人口：6,467人 世帯数：2,979世帯 高齢化率：41.9%

1. 助け合い・支えあい  
安心の広がるまちづくり
2. 子どもを育みやすい  
まちづくり

## 12 川上小学校区

人口：7,442人 世帯数：3,678世帯 高齢化率：49.5%

1. 多世代のつながりを深め、支え合いの輪を広げる
2. 誰もがいきいきと活躍できる場を創出する

## 13 天見小学校区

人口：681人 世帯数：360世帯 高齢化率：54.8%

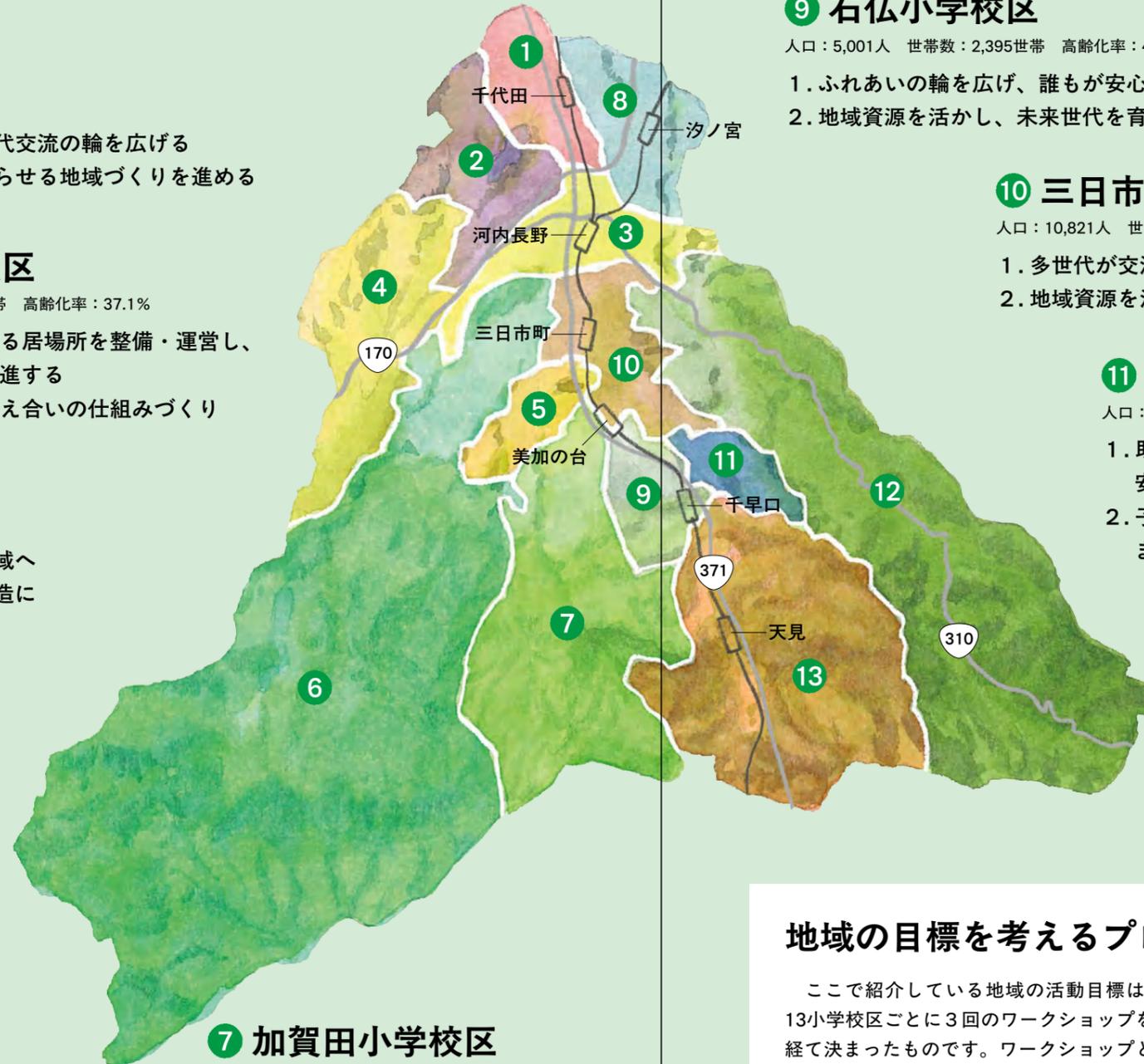
1. 多世代が交流し、活気あふれる地域をつくる
2. 支え合いの輪を広げ、誰もが安心して暮らせる地域をつくる

※人口、世帯数、高齢化率は、令和7年3月時点のものです。



活動のご相談は地域パートナーへ地域のつながりを広げていくため、小学校区ごとに配置しています。お困りごとや活動のアイデアなど、お気軽にご相談ください。

● 社会福祉協議会 ☎0721-65-0133



## 地域の目標を考えるプロセス ワークショップのすすめかた

ここで紹介している地域の活動目標は、13小学校区ごとに3回のワークショップを経て決まったものです。ワークショップとは、立場や役職に関わらず公平に意見を出し合える会議形式のこと。前回の計画づくりから本格的に導入し、地域のことを話し合う場になっています。

また、各地域では計画づくりの有無に関係なく毎年1回以上話し合いの機会を設けており、移動支援や集まれる場づくりなど、住民目線で多くの活動が生まれています。



左/ふせんに意見やアイデアを書き込みグループごとに検討。右上/会場のようす。右下/最後にグループでの検討内容を全体で共有。

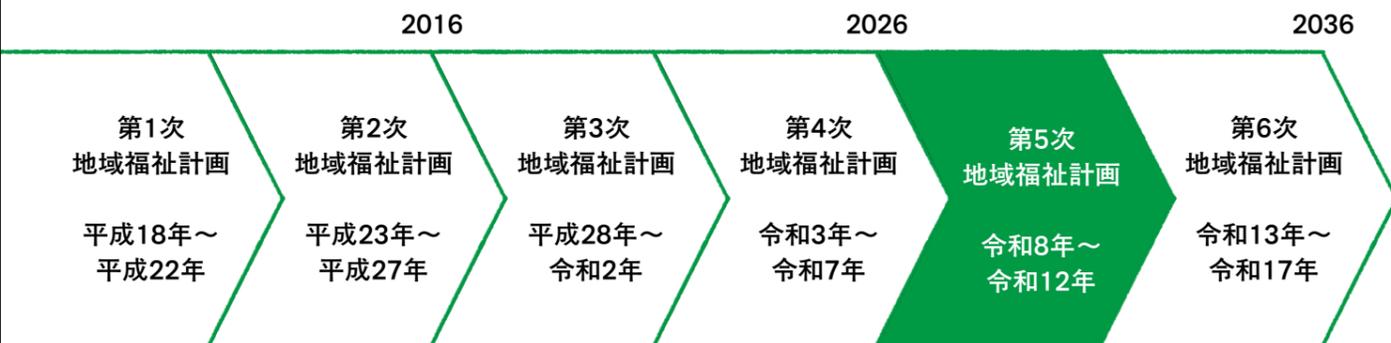
# Q ところで、地域福祉計画ってなんですか？

**A** 「みんなが安心して自分らしく暮らせる地域をめざした、みんなで作る未来図」です。

地域福祉とは、地域で困りごとを抱える人たちを、地域に住むみんなで支え、解決していく仕組みのことです。特定の誰かだけを助けることでなく、こどもから高齢者、障がいのある人、外国人など、地域で暮らすすべての人が支え合って、自分らしく安心して暮らせることを目指します。

「河内長野市第5次地域福祉計画」は、福祉に関するさまざまな計画の基本となる上位計画です。この計画では、福祉分野の取り組みに共通する理念を整理し、令和8年度から令和12年度までの5年間における方向性を明確に定めます。また、社会福祉協議会が定める「地域福祉活動計画」と一体的に策定することで、行政、民間、住民、ボランティア団体、NPOなどすべての主体で同じ理念や課題を共有しながら、より強力な協働体制を築いていくことが可能になります。河内長野市では「ほっとかへん。」をキーワードに、顔の見える関係を築き、支え合える地域づくりを進めます。

**基本理念** つながり・支えあいがひろがる河内長野  
～「ほっとかへん。」をめざしたまちづくり～



# Q 計画の期間が終わる5年後は、どうなっているの？

**A** みんなで取り組みを進めていけば、今よりも、「楽しい」「嬉しい」「幸せ」が増えています。

たとえば、これまで福祉サービスを受ける側だった人が、得意なことを活かして社会の一員として活躍できればステキですね。ほんの少し視点を変えれば、「守られる人」にも「地域を良くする人」の側面が見えるかもしれません。令和8年からの5年間では、地域のつながりをひろげ、その関係性の中で「支える側」「支えられる側」の垣根を越えていくことをめざします。大人もこどもも、障がいがあってもなくても、日本人でも外国人でも、地域に暮らすすべての人がつながり、支え合いながら笑顔で暮らす、そんな河内長野市でありますように。

# データで見る地域福祉

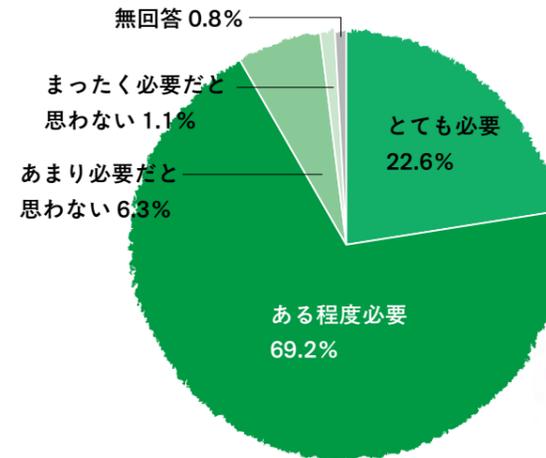
「地域共生社会実現に向けた市民アンケート報告書」  
(令和7年3月河内長野市)より

報告書はこちらから→



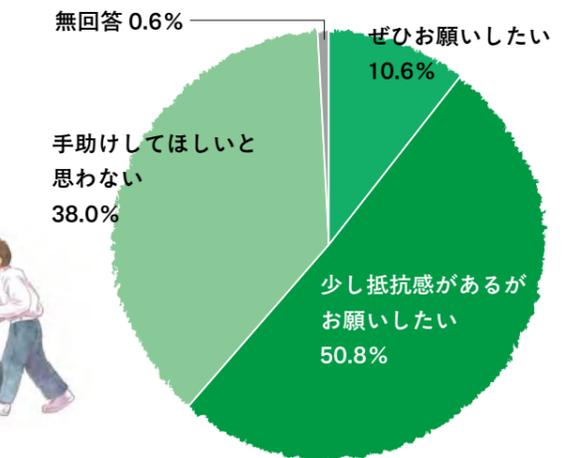
助け合いは必要だと思っても、自分が助けられてはちょっと苦手です。

Q あなたは、地域での住民相互の自主的な支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか？



「とても必要」「ある程度必要」の合計で91.8%の人が地域での住民相互の自主的な支え合い、助け合いが必要と考えています。

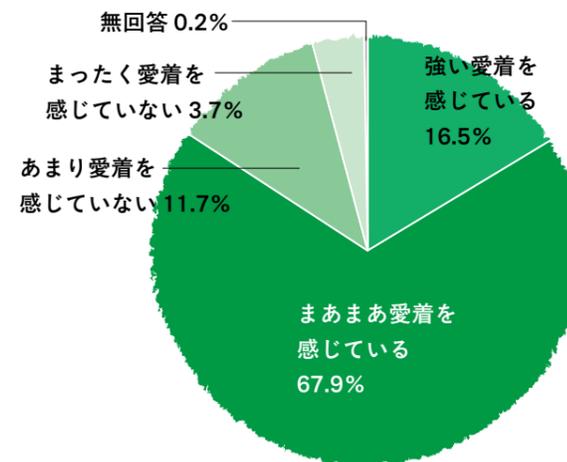
Q あなたやご家族が日常生活で介助や支援が必要になった場合、近所の人などから手助けをしてもらうことについてどう思いますか？



「ぜひお願いしたい」と「少し抵抗感があるがお願いしたい」の合計は61.4%。前の問いで助け合いの必要性を感じる人が9割を占めたのに対して、手助けをしてもらうことに対して抵抗感があることが分かります。

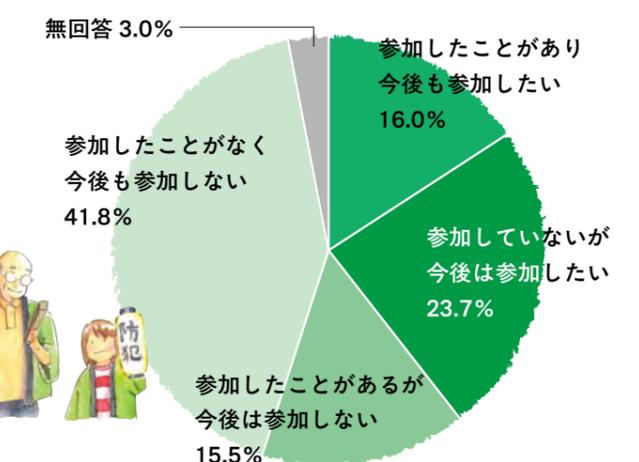
地域への愛着は強いけど、地域の活動に加わるのはちょっとハードルが高い？

Q 今お住まいの地域に対して、どのように感じていますか？



「まあまあ愛着を感じている」が67.9%、「強い愛着を感じている」が16.5%と、合わせて84.4%の人が居住地域に愛着を感じています。

Q 各種ボランティア活動や地域活動にスタッフとして参加したことがありますか？また、今後の参加意向についてはいかがですか？



「参加したこともなく、今後も参加しない」が41.8%と最も多く、次いで「参加していないが、今後は参加してみたい」が23.7%。活動のすそ野を広げる努力が求められているようです。

地域福祉計画では、「助けてほしい」と言いやすい地域やいろいろなイベントや活動に参加しやすい地域を目指しています。